

つぎの文しように読んで もんだいに
答えましよう。

たがいに 知らない 世界の 話は

ふしぎで、だから よけいに 美しく思え、

それは 胸の ときめく ものでした。

空と 海とで 星と クラゲは、ずっと

① おしやべりをかわしました。ちっぽけな

クラゲに とっては、まるで 夢のような

一夜でした。

やがて 夜明けが 近く なり、星は

かすんで きました。クラゲが 星に た

ずねます。

「今夜も また 会えますか」

「わたしは ほうき星。今夜は ここをと

おりません。何百年か たてば、とおるか

も しれません」

「じゃあ、その ときには また、おしや

べりを して くれますか」

「もちろんです。ああ、さびしい 旅だけ

れど、楽しみに する ことが できたな

あ」

クラゲは それを 聞くと、胸が いっぱ

い になって しまいました。

(安東 みきえ「星につたえて」)

① 「おしやべり」は クラゲと 星に

とって どのような もん でした
か。

胸が
もの。

② クラゲは、星と おしやべりを か

わした 夜を、どのように 思っ
て いますか。つぎから えらび、きこう
で 答えましよう。

ア 夢のようだ。

イ はずかしかった。

ウ びっくりした。

()

③ つぎに クラゲが 星に 会えるの

は いつですか。

たってから。

② 「また、おしやべりを して くれ
ますか」と 言われた 星は、どの

ように 思いましたか。

旅は
けれど、

に する ことが

できたと 思った。